

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	学習方法論			担当講師	伊藤浩一、岡崎宏		
分野	基礎	授業方法	講義・演習	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	4 単位	時 間	60 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<p>本講義では、自己学習・集団学習の基本的実践能力を養う。説明的な文章の読み書きについて、語彙・構文法等を踏まえた基本的な構え、文章を読み取って理解するスキル、考えを整理し組み立てるスキル、書いて自己添削するスキル等を取り上げる。また、学習における課題解決のための論理的な仮説検証の思考方法、およびフレームワークを学ぶ。ロジカルシンキングの概要と原理や経営学の各分野における代表的なフレームワークを理解する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習方法を理解し、ひとりで、あるいは複数人で効果的に勉強を進めることができる 2. 症例報告のレポートにおいて、枠組みを整理し、作成する流れを理解できる 3. 論理的思考の具体的方法を理解し、実践できる 						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	学習とは～オリエンテーション～
2	ラーニングピラミッド
3	アクティブラーニング
4	エビングハウスの忘却曲線、記憶
5	復習タイミング・勉強スケジュール立案
6	学習目標の立て方
7	目標達成のための具体策を考えよう
8	具体策を実行に移すためには
9	KJ法
10	バイアス①
11	バイアス②
12	アサーション
13	コンサルテーション
14	リカレント学習
15	生涯学習
16	余暇活用法
17	ピアサポート
18	ペアレントトレーニング
19	人権教育、人権学習
20	医学論文を読む①
21	医学論文を読む②
22	職能団体について
23	ロジカルシンキング
24	フレームワーク
25	PEST
26	SWOT
27	MECE

28	イシュー
29	ロジックツリー
30	終講試験
評価方法	課題提出50%、終講試験50%
教科書	配布資料
参考書	なし
備考	

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>
科目名	情報処理			担当講師	石井汰樹、根本皇太
分野	基礎	授業方法	講義・実技	実務経験	言語聴覚士としての実務経験
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次 学 期 前期
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ Word、Excel、PowerPointのアプリケーションソフトの基本的なコンピューター操作を習得する ・ 情報倫理や情報モラルについて理解する 				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. アプリケーションソフトの基本操作が実践できる 2. 提出物の期限を守ることができる 3. 指導に対する自己修正ができる 4. 報告書を作成することができる 5. 傾聴力を身に付けることができる 6. 表現力を身に付けることができる 7. 情報を扱う文化的・倫理的・経済的・社会的な問題を認識できる 				
回	授 業 計 画 ・ 内 容				
1	WiFi接続、サイボウズ、みんなの体調ノート、ZOOM、メディカルオンラインの使用方法				
2	Word、Excelの基本操作①～講義室の機器の使い方、学級日誌～				
3	Word、Excelの基本操作②～自己紹介シート～				
4	Word、Excelの基本操作③～発表会に向けた報告書、要旨の作成～				
5	Word、Excelの基本操作④～発表会に向けた報告書、要旨の作成～				
6	Word、Excelの基本操作⑤～発表会に向けた報告書、要旨の作成～				
7	PowerPointの基本操作①～プレゼンテーション資料の作成～				
8	PowerPointの基本操作②～プレゼンテーション資料の作成～				
9	PowerPointの基本操作③～プレゼンテーション資料の作成～				
10	PowerPointの基本操作④～スライドショー、アニメーションの利用				
11	PowerPointの基本操作⑤～スライドショー、アニメーションの利用				
12	PowerPointの基本操作⑥～スライドショー、アニメーションの利用				
13	著作権について				
14	ZOOM操作の基本				
15	課題レポートの作成、提出				
評価方法	課題レポート（100%）で評価する				
教科書	配布資料				
参考書					
備 考					

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	統計学			担当講師	佐用 寛文		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	統計は科学的な推論や考察においてその根拠を示す基となる重要なものである。この講座では記述統計学および推計学の基礎を学ぶ。そして統計処理が必要になった場合にどのように処理すればよいかを見極めることができるようになることを目的とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学とはどのようなものかを説明できる。 2. データのばらつきについて説明できる。 3. 正規分布について説明できる。 4. 仮説検定について説明できる。 5. 相関と回帰分布について説明できる。 6. 感度と特異度について説明できる。 7. リスク比とオッズ比について説明できる。 8. 様々な解析ができる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	尺度						
2	代表値						
3	標準偏差						
4	四分位範囲						
5	正規分布						
6	仮説検定						
7	信頼区間						
8	データの読み方						
9	相関と回帰分布						
10	感度と特異度						
11	リスク比とオッズ比						
12	バイアスと交絡因子						
13	t 検定						
14	一元配置分散分析						
15	終講試験						
評価方法	終講試験（100%）						
教科書	ゼロから学ぶ医薬統計教室 メディカルビュー社						
参考書							
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	英 語			担当講師	君塚 葉子		
分 野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	医療の国際化に伴い、外国人との交流や英文献の抄読の機会は、今後さらに拡大するであろう。その際のコミュニケーションのとり方や文献読解能力を養う。						
到達目標	以下のことを英文を読んで説明できる。 1 英語によるコミュニケーションのとり方を理解する。 2 英文献読解に必要な知識・技術が習得できる。 3 臨床における医学英語の意味を理解できる						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	Unit 1 General ideas of health						
2	Unit 2 Polyphenol						
3	Unit 3 Reducing your smartphon use						
4	Unit 4 AI in health care						
5	Unit 5 Japan's school lunches						
6	Unit 6 Avoiding foods with hidden sugar						
7	Unit 7 Periodontal disease						
8	Unit 8 Creative lifestyle						
9	Unit 9 The power of pets						
10	Unit 10 Healthcare Policy						
11	Unit 11 Healthcare Profession						
12	Unit 12 Natural hot springs						
13	Unit 13 Sleep debt						
14	Unit 14 Alzheimer's disease						
15	終講試験						
評価方法	終講試験（100%）						
教科書	【健康・リーディング】あしたを生きる ころとからだ 朝日出版社						
参考書							
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	心理学 I			担当講師	松井 進		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<p>「なぜ人はその時、その場面でそのような行動をしたのか？」という問いに答えるのが心理学であるとも言われる。意識の学としてはじまった心理学は、行動の学として発展している。行動の特徴や性質を究明したい。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人が社会の中で適応して行動するためには、子供の時からの学習が必要であり重要であることを説明できる。 2. 野生児が人間社会で生活することはむずかしいことが説明できる。 3. 鳥類等のひなが生きるためにはインプリンティングが必要であることを説明できる。 4. 何ごとによらず幼い時の経験が後の生活に大きな影響を及ぼすことを説明できる。 5. 知らず知らずわれわれの行動はいろいろな刺激と結びついている（古典的条件付け）を説明できる。 6. パチンコに限らず賭け事（ギャンブル）は、成功するとやめられなくなることを説明できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	ガイダンス、心理学史						
2	心理学史、研究法						
3	実験法、調査法、検査法						
4	感覚の種類と閾値、						
5	色覚、三原色説、図と地						
6	反転図形、群化の要因、錯視、奥行き知覚						
7	奥行き知覚の手がかり、運動の知覚						
8	記憶モデル						
9	長期記憶とその分類、想起法						
10	エビングハウスの実験、忘却説						
11	問題解決とその影響因						
12	馴化とその特徴、古典的条件付け						
13	パブロフ実験、情動条件付け、消去・回復、ソーンダイク実験						
14	オペラント条件付けの原理						
15	終講試験						
評価方法	終講試験(100%)						
教科書	系統看護学講座 心理学 医学書院						
参考書							
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	心理学Ⅱ			担当講師	松井 進		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	<p>今後、心理学の複数の領域の学習を進める前提として、その基盤となるような知識を提供する。具体的には、心理学という学問の基本的な考え方や、研究方法、学問成立の背景などを紹介するとともに、個別の心理学領域についても概説していく。</p>						
到達目標	<p>心理学における、具体的な研究方法、学問成立の背景などを理解するとともに、個別の心理学領域の現況を概観し、心理学の学習をさらに進めていく上での基礎知識を習得する。</p>						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	認知・学習心理学概論①						
2	認知・学習心理学概論②						
3	認知・学習心理学概論③						
4	認知・学習心理学概論④						
5	認知・学習心理学概論⑤						
6	心理統計法概論①						
7	心理統計法概論②						
8	心理統計法概論③						
9	心理統計法概論④						
10	心理統計法概論⑤						
11	臨床心理学概論①						
12	臨床心理学概論②						
13	生涯発達心理学概論①						
14	生涯発達心理学概論②						
15	終講試験						
評価方法	終講試験(100%)						
教科書	系統看護学講座 心理学 医学書院						
参考書							
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	人間発達学 I			担当講師	岡崎宏		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<p>本講義では、ヒトが普遍的に経験する誕生、発達、加齢、死といった現象を人間の視点から学際的に捉える。人文学的、あるいは自然科学的視点から網羅的に解説する。人間発達学 I では、小児・高齢者における生命倫理、認知特性および社会環境についてを学ぶ。</p>						
到達目標	<p>ヒトの誕生から死まで、身体、心・精神、社会・環境における現象と課題を理解し、自分の意見を考え、述べることができる。</p>						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	子どもとは						
2	子どもの認知特性						
3	子どもの見え方体験						
4	子どもの権利条約						
5	大人からの保護						
6	児童虐待						
7	学校、不登校						
8	学ぶということ						
9	大人になるということ						
10	老いるということ						
11	高齢者の認知特性						
12	機能の低下、高齢者体験						
13	認知症						
14	介助・介護体験（車椅子、手引き歩行など）						
15	終講試験						
評価方法	終講試験100%						
教科書	配布資料						
参考書							
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	人間発達学Ⅱ			担当講師	稲川良		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	2単位	時間	30時間	学年	1年次	学期	後期
概要	<p>本講義では、ヒトが普遍的に経験する誕生、発達、加齢、死といった現象を人間の視点から学際的に捉える。人文学的、あるいは自然科学的視点から網羅的に解説する。人間発達学Ⅱでは、ヒトの感情、認知、言語、思考といった精神機能の神経科学的知見を整理する。</p>						
到達目標	<p>1. 精神機能に関わる脳機能の基礎を理解できる。 2. 社会的生物としてのヒトの精神機能を理解できる。</p>						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション						
2	知覚①						
3	知覚②						
4	注意①						
5	注意②						
6	記憶①						
7	記憶②						
8	判断①						
9	判断②						
10	判断③						
11	言語①						
12	言語②						
13	言語③						
14	まとめ						
15	終講試験						
評価方法	課題50%、終講試験50%						
教科書	配布資料						
参考書							
備考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	社会学			担当講師	小笠原尚宏		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	社会という現象を実感として知る。						
到達目標	<p>主に次の2つのテーマをとりあげ、それぞれ具体的な事例に即して考えていく。社会学の基本的な考え方や概念、理論についても紹介する。</p> <p>1. 「働く」ということ（ルール論・職業論）： 企業組織と個人との関わりを考える。組織の中で期待されるふるまいとは何か。所属する組織の規模・雇用形態・性別によって異なる人の職業生活。現代日本社会の特徴と将来の展望。</p> <p>2. 「私である」ということ（自己論）： 社会的自己の形成のしくみを考える。「私らしさ」とは何か。社会的自己の形成のメカニズム。さまざまな「私」を許容する社会へ向けて。</p>						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	社会とは何か						
2	類型化、社会集団論						
3	家族の家族定義						
4	近代家族論						
5	55年後の社会と私を考える						
6	ライフコース、ジェンダー						
7	産業、労働						
8	終講試験						
評価方法	終講試験（100%）						
教科書	大学生のための社会学入門 晃洋書房						
参考書							
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	倫理学			担当講師	町田 一		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<p>「学問を学ぶ」これには、二つの意味がある。一つは、学ぶ人自身がその学問を自ら「する」ことができるようになること。もう一つの意味は、その学問について語れるようになること。その学問で使われる言葉（術語）の意味を覚えて使えるようになることや、議論されている内容について語れるようになることと考えます。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の尊厳について、自分の考えを述べることができる。 2. いのちの教育の必要性を述べることができる。 3. 生物と共存するための道を自分なりの考えで述べることができる。 4. 患者の権利を述べることができる。 5. 患者の権利運動の歴史的背景を述べることができる。 6. 自己決定権について、自分なりの考えを述べることができる。 7. 脳死の判定基準を述べることができる。 8. 脳死と植物状態を区別して述べることができる。 9. 安楽死と尊厳死と自然死の違いを述べることができる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	倫理学とは カントの定言命法						
2	功利主義 アリストテレスの中庸						
3	心情倫理の難点 結果倫理の難点						
4	パーソン論						
5	生命の始まりをめぐる問題 中絶擁護の意見						
6	安楽死						
7	人間中心主義から脱人間中心主義へ						
8	終講試験						
評価方法	終講試験100%により学修成果を判定する						
教科書	(指定教科書なし)						
参考書							
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	コミュニケーション論			担当講師	根本皇太		
分野	基礎	授業方法	講義・演習	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	社会・医療現場で求められるコミュニケーションについて理論及び実践を学ぶ						
到達目標	1. コミュニケーションの基本が理解できる 2. 丁寧に聞くための傾聴力を身に付けることができる 3. わかりやすく伝える表現力を身に付けることができる 4. 対人関係を営むための関係力を身につけることができる 5. 言語聴覚士としてのコミュニケーションの評価ができる						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	コミュニケーションの必要性を知る①～医療専門職のコミュニケーション～						
2	コミュニケーションの必要性を知る②～医療専門職のコミュニケーション～						
3	医療者のコミュニケーション（1人称から3人称のコミュニケーションへ）						
4	自己実現に向けて①～言語聴覚療法学科教員との関わりを通して～						
5	自己実現に向けて②～言語聴覚療法学科教員との関わりを通して～						
6	医療者としてのコミュニケーションを大まかに理解できる「傾聴力、表現力、関係力」						
7	コミュニケーション技術演習①（相手を知ろう・自分を知らせよう）						
8	コミュニケーション技術演習②（相手を知ろう・自分を知らせよう）						
9	社会人として求められる礼儀・マナーを理解し、説明できる						
10	医療場面におけるコミュニケーションを理解し、説明できる①～患者編～						
11	医療場面におけるコミュニケーションを理解し、説明できる②～家族編～						
12	医療場面におけるコミュニケーションを理解し、説明できる③～他職種編～						
13	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ①						
14	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ②						
15	言語聴覚士としてコミュニケーションの評価方法を学ぶ③						
評価方法	提出物(80%)、授業態度(20%)						
教科書	随時、資料配布する						
参考書							
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	接遇・マナー演習 I			担当講師	加藤木和子		
分野	基礎	授業方法	講義・演習	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	対人関係を営む上でのマナー・礼節・モラルを修得する。						
到達目標	1. 動きの礼儀作法を理解する。 2. 社会のルール、接遇を理解する。 3. 手紙の書き方を学ぶ。 4. 対人関係論を学ぶ。 5. 電話応対について学ぶ。 6. ロールプレイにて場面状況に合わせた対応を理解する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション						
2	スピーチの組み立て方、ビジネスマナーの原則、挨拶、自己紹介のマナー①						
3	スピーチの組み立て方、ビジネスマナーの原則、挨拶、自己紹介のマナー②						
4	名刺交換						
5	医療と福祉の原点①						
6	医療と福祉の原点②						
7	接遇のマナー全般①						
8	接遇のマナー全般②						
9	階段昇降、応接室の上座・下座①						
10	階段昇降、応接室の上座・下座②						
11	一般教養と理念、医療従事者としての電話のマナー①						
12	一般教養と理念、医療従事者としての電話のマナー②						
13	ビジネスレターの書き方①						
14	ビジネスレターの書き方②						
15	終講試験						
評価方法	終講試験(100%)						
教科書	配布資料						
参考書							
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>		
科目名	職業キャリア論 I			担当講師	高橋知也、安斎勇氣、加藤俊彦、舟木一樹		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	言語聴覚士として、自分にはどのような適性や能力があるのか。領域ごとに、それらを活かすにはどうすればよいのか。患者を取り巻く環境において、どのような課題解決が求められているのか。職業キャリア論 I では、こうした問を考えながら、将来の臨床現場を見据えて自ら意欲的・計画的に学習を進められるような講義を提供する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚士とはどのような仕事なのか、自分のことばで説明できる。 2. 言語聴覚士に求められる能力を理解できる。 3. 言語聴覚士が求められる環境を理解できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	言語聴覚士の過去・現在・未来①						
2	言語聴覚士の過去・現在・未来②						
3	茨城県の言語聴覚療法と失語症友の会の歩み①						
4	茨城県の言語聴覚療法と失語症友の会の歩み②						
5	言語聴覚士のキャリアビジョン①						
6	言語聴覚士のキャリアビジョン②						
7	生活期リハ（訪問・地域）①						
8	生活期リハ（訪問・地域）②						
9	介護予防①						
10	介護予防②						
11	茨城県言語聴覚士会の役割①						
12	茨城県言語聴覚士会の役割②						
13	小児領域の言語聴覚療法①						
14	小児領域の言語聴覚療法②						
15	終講試験						
評価方法	終講試験100%						
教科書	配布資料						
参考書							
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	基礎言語聴覚療法学 I			担当講師	石井汰樹、松本典之、高堀雅子、根本皇太、岡崎宏
分野	基礎	授業方法	講義・演習	実務経験	言語聴覚士としての実務経験
単位数	4 単位	時 間	60 時間	学 年	1年次 学 期 後期
概 要	見学実習での経験と、心理学、人間発達学、コミュニケーション論などの基礎知見を関連付けて、言語聴覚士の対象児・者における情報を整理・統合する。				
到達目標	学際的な視点（基礎知識）から、言語聴覚療法を考えられる。				

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	心理学と言語聴覚療法①
2	心理学と言語聴覚療法②
3	心理学と言語聴覚療法③
4	心理学と言語聴覚療法④
5	心理学と言語聴覚療法⑤
6	人間発達学と言語聴覚療法①
7	人間発達学と言語聴覚療法②
8	人間発達学と言語聴覚療法③
9	人間発達学と言語聴覚療法④
10	人間発達学と言語聴覚療法⑤
11	社会学と言語聴覚療法①
12	社会学と言語聴覚療法②
13	社会学と言語聴覚療法③
14	倫理学と言語聴覚療法①
15	倫理学と言語聴覚療法②
16	倫理学と言語聴覚療法③
17	コミュニケーション論と言語聴覚療法①
18	コミュニケーション論と言語聴覚療法②
19	コミュニケーション論と言語聴覚療法③
20	コミュニケーション論と言語聴覚療法④
21	コミュニケーション論と言語聴覚療法⑤
22	言語聴覚療法における接遇・マナー①
23	言語聴覚療法における接遇・マナー②
24	言語聴覚療法における接遇・マナー③
25	言語聴覚療法における接遇・マナー④
26	言語聴覚士の職業キャリア①
27	言語聴覚士の職業キャリア②

28	言語聴覚士の職業キャリア③
29	まとめ
30	終講試験
評価方法	終講試験100%
教科書	言語聴覚士テキスト（医歯薬出版）
参考書	
備考	